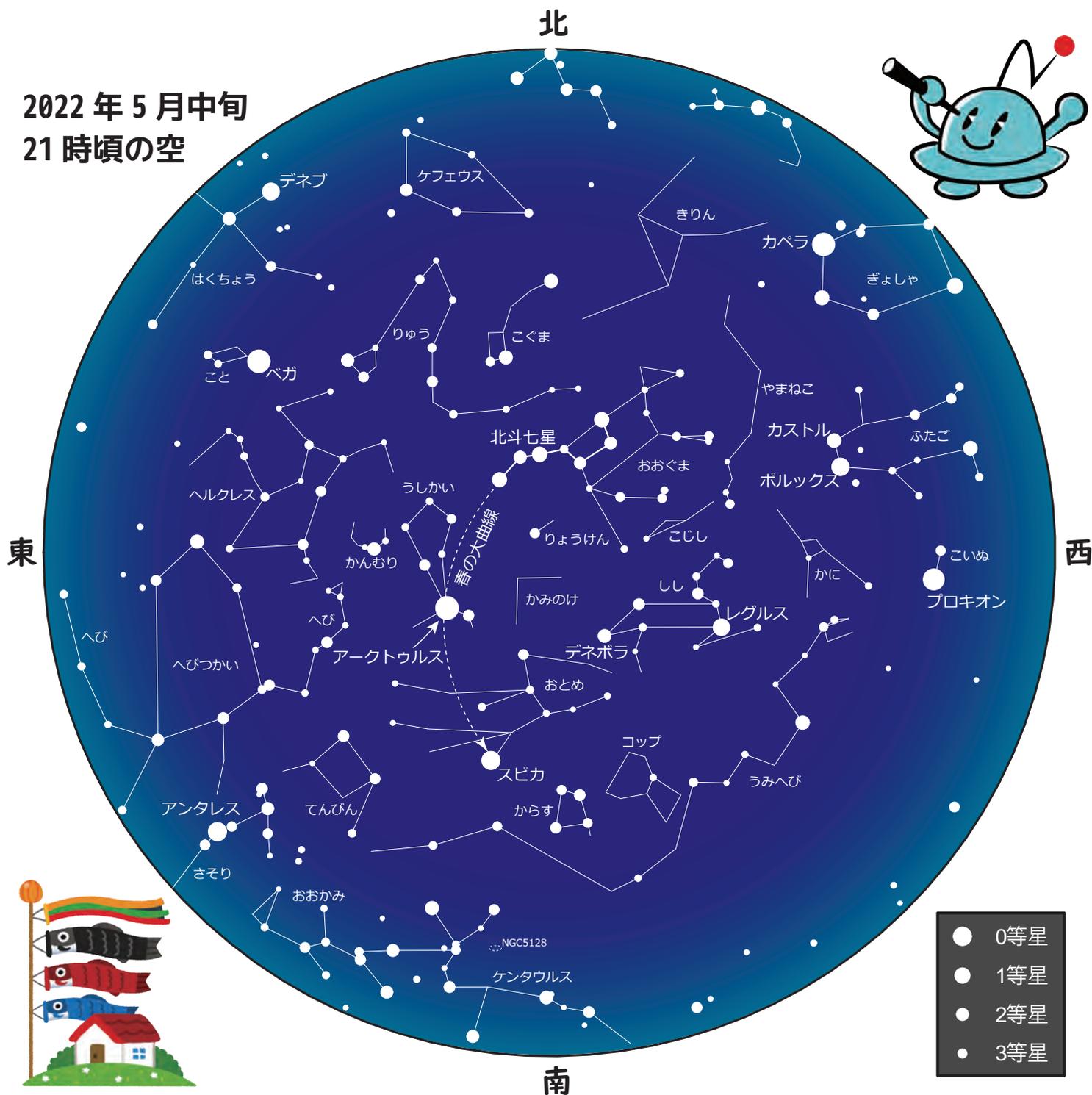


阿南市科学センター

5月の星空案内

2022年5月中旬
21時頃の空



5月は春霞みも落ち着き、移動性高気圧の影響で晴れた日は透明度の良い空がひろがりやすく、天体観測に適した時期の一つです。北よりの空高いところを見上げれば、柄杓（ひしゃく）のような形をした七つの星からなる『北斗七星』（おおぐま座の一部）が見えます。その柄の部分に曲線状に延長していくとアークトゥルス（うしかい座）やスピカ（おとめ座）といった春の明るい星たちを辿ることができ、この大きな曲線を『春の大曲線』と言います。一方で、真夜中過ぎには東の空から早くも夏の星座や天の川が昇ってきます。梅雨入りする前に眺める天の川は、5月特有の透明度の高い空と相まって、息を飲む美しさです。徳島であれば、太平洋に面した県南の海沿い地域で観察するのがおすすめです。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催 / 19時～, 20時～, 21時～】

阿南市科学センター

電話 0884-42-1600

<http://ananscience.jp/science/>

5月の月の満ち欠けと惑星について



新月
1日, 30日



上弦
9日



満月
16日



下弦
23日

5月の天体観望会で月が見える日時は？



5/7(土)・・・20時、21時の回



5/14(土)・・・20時、21時の回

水星：上旬頃、日没後に西のごく低空で見える。【約1等】

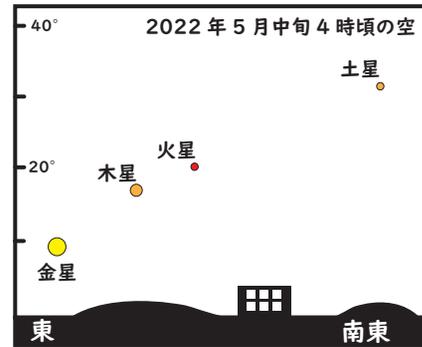
金星：明け方頃、東のごく低空で見える。【約-4等】
5/1の明け方は木星と大接近して見える(約12分角)。

火星：深夜過ぎ土星のあとに続いて昇ってくる。【約1等】

木星：深夜過ぎ火星のあとに続いて昇ってくる。【約-2等】

土星：深夜過ぎ東寄りの空から昇ってくる。【約1等】

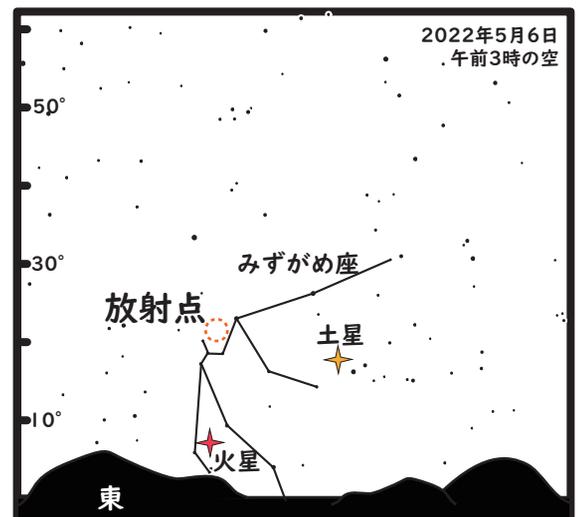
※各惑星の等級は中旬頃の明るさ(水星のみ上旬頃)。



注目の天文現象

【みずがめ座η(エータ)流星群】

みずがめ座η流星群は、例年ピーク時に1時間で数個から10個程度の流星が見えることが知られています。ただし、みずがめ座は秋の星座なので、例年この流星群の放射点が昇ってくるのは深夜過ぎとなります。日本では放射点の位置が低高度なので出現数は少なめですが、南半球では夜明けも遅く、放射点の位置が高くなるので1時間に数十個も流れ、南半球の国々では人気の流星群です。今年の出現のピークは5月6日の午後5時ごろ(日本時間)と予想されており、観察は5日や6日の深夜から明け方にかけて行くと良いでしょう。今年は月明かりの影響も少なく、観察の条件は良好です。なおこの流星群の母天体はハレー彗星だと考えられています。



みずがめ座η(エータ)流星群の放射点の位置。

おもしろ天文学

【電波銀河ケンタウルス座A(NGC5128)】

春に見える星座の一つに「ケンタウルス座」という星座があります。この時期日本では南の低空で見つけることができ、徳島では太平洋に面した県南地域で観察がしやすいです。ケンタウルス座には幾つかの有名な星団や銀河があり、中でも電波銀河という種類の「ケンタウルス座A(NGC5128)」は、長きにわたり天文学者が注目してきた天体の一つです。この天体は二つの銀河(楕円銀河と渦巻銀河)が衝突したことによって、次々と新しい星が誕生するスターバーストが起こっていると考えられており、中央には超巨大ブラックホールが存在すると言われています。日本を含む国際チームはこの天体の超巨大ブラックホールの謎に迫るべく、日夜研究が進められています。



電波銀河ケンタウルス座Aの姿
(撮影: K. Imamura / 美波町内にて)。